あたらしい町内会へ

若い人を巻き込む町内会づくり読本

発行元　札幌市市民文化局 市民自治推進課
住所　札幌市中央区北1条西2丁目　TEL 011-211-2253
平成30年3月　発行

さっぽろ市
01-D02-17-2598
29-I-203

はじめに

いま、札幌市の町内会では、役員や活動の担い手不足が大きな課題の一つとなっています。

このような状況が続いていくと、活動する限られた人の負担はさらに大きくなり、町内会の活動はますます停滞していってしまうでしょう。そして、もしかしたら、地域の安全安心、快適な暮らしも危ぶまれてしまうかもしれません。

多くの町内会が設立から40年以上経ち、その間、時代も大きく変化しています。ライフスタイルや価値観もさまざまになっていますが、これは仕方がないことかもしれません。
しかし、このような時代やニーズの変化に目を背けず、少しずつでも町内会として対応していくことが、いま、求められているのです。

そのためには、これまでのやり方に固執することなく、多様性を受け止め、ニーズにあった環境づくりが重要となります。
そして、若い世代に積極的に働きかけながら、巻き込んで進めていくことが必要です。

地域の若い世代には、子どものため、仲間のため、後輩のため、そして地域のために何かできると意欲をもったひともたくさんいるのです。
町内会として、ほんの少しの覚悟と勇気、愛情を持って、まず一歩踏み出してみましょう。

ただし、若い世代といっても、大学生から働き盛りの社会人、子どもを持つママなどさまざまなひとがいます。そのライフスタイルや興味・関心、参加しやすい方法もさまざまです。

この冊子では、いわゆる「子育て世代」と言われる20代～40代のさまざまな想いや考え方、アイデアなどをとりまとめています。

町内会では、若い世代を巻き込んでいくための新しいスタートの時機が来ているのかもしれません。
この冊子が、町内会と若い世代が互いに尊重しあい、ともに活動していく、その後押しとなることを願っています。

INDEX

はじめに ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 01
INDEX ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 02
町内会の現状と課題 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 03
アンケート調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 04
若い世代の声 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 05
若い世代に参加してもらうためのヒント ・・・・・・・・・・・・・ 09
参考 地域活動体験レポート ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
参考 LINE クラウド Skype について ・・・・・・・・・・・・・・・ 21

町内会の現状と課題

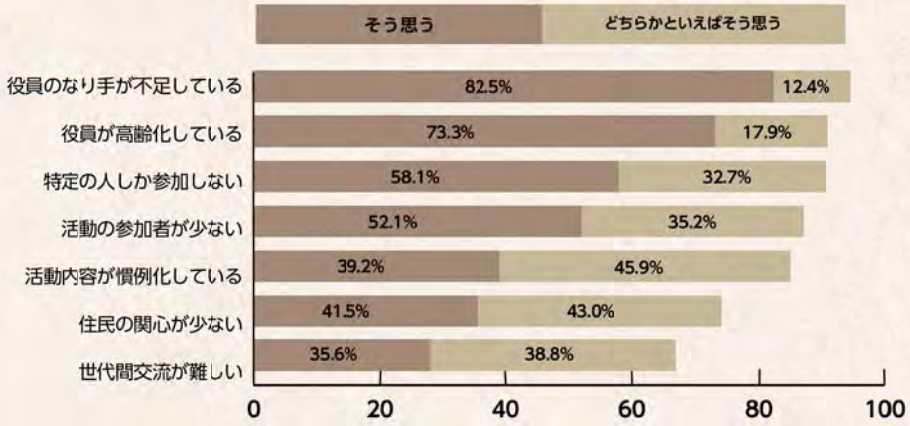
札幌市には、現在、2,201の単位町内会があり（平成30年1月1日現在）、それぞれの町内会・自治会では、さまざまな工夫を凝らしながら町内会活動が活発に進められています。

しかし、少子高齢社会をはじめとする社会情勢の変化やライフスタイルの多様化などに起因して、札幌市の町内会では「担い手確保」と「加入率の低下」が大きな課題となっています。

特に、札幌市内の町内会にご協力いただいたアンケートによると、町内会活動において、「役員のなり手不足」や「役員の高齢化」、「特定の人しか参加しない」など、活動の担い手不足が課題となっています。

このため、若い世代などこれまで関わりが少なかった人に対して、参加を促すなど活動に関わってもらうようにすることが求められています。

■町内会の活動を行っていくうえで、課題となっていること(複数回答)



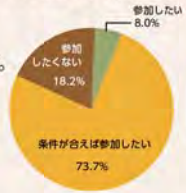
出典：町内会・自治会に関するアンケート調査結果（平成28年3月）を編集

アンケート調査

札幌市内の「子育て世代」と言われる20代～40代の若い世代を住民基本台帳から2,000名無作為抽出して、地域活動に関する意向などについてアンケート調査を行ったところ137名から回答がありました。アンケートの主な結果は以下のとおりです。

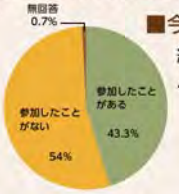
■今後の地域活動への参加意向

8割以上が参加したいと思っています。しかし、「条件があえば参加したい」が7割以上であるため、若い人が参加しやすい条件を設けて参加を促す事が求められます。



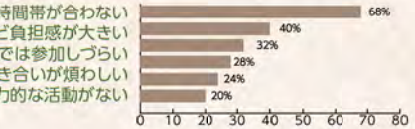
■今までの地域活動への参加経験

約半数の若い世代が地域活動への参加経験があります。



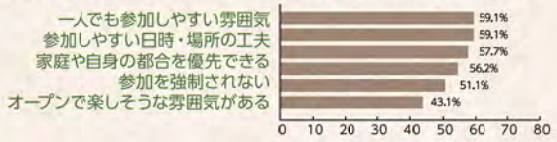
■地域活動に参加したくない理由(複数回答)

参加したくない人のうち、「時間がない」「曜日や時間帯が合わない」という人が約7割となっています。また、「負担感が大きい」との意見も4割を占めています。



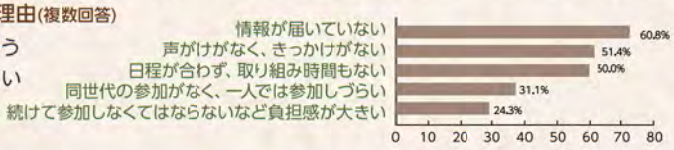
■地域活動に参加するための条件(複数回答)

「参加しやすい雰囲気」や「日時・場所の工夫」「自分の都合を優先できる」など、ライフスタイルを保ちながら参加できることを重視していることがわかります。



■地域活動に参加したことがない理由(複数回答)

「情報」や「きっかけ」がないという理由のほか、「日程が合わない」という意見が5割を超えています。



これまで、若い世代は町内会などの地域活動に関心がなく参加が少ないと思われがちでしたが、アンケート結果を見ると決してそのようなことはないことがわかります。
「条件があれば参加したい」「関心はある」という回答が多いことから、若い世代が参加しやすいように条件や受け入れ態勢を見直すことで、参加のきっかけになるかもしれません。
次ページからは、若い世代の声やアイデアを具体的に紹介していますので、参考にしてみて下さい。

若い世代の声

20代～40代の若い世代を住民基本台帳から2,000名無作為抽出し、前頁のアンケート調査を行うとともに、応募のあった約40名に意見交換会（2回）、地域活動実践体験（1回）の全3回の事業へ参加してもらいました。

若い世代による2回の意見交換会を通して、地域活動や町内会活動についての思いや考え、これからの地域活動に若い世代を巻き込むためのアイデアを出してもらい、本冊子にまとめました。

次のページからその結果を紹介していきます。若い世代のアイデアなどを見てみましょう！

第1回意見交換会（平成29年9月24日）

・「地域活動に対するイメージ」「今後の参加意向」「若い人が参加する必要性」について話し合いました。（7ページ参照）

・より若い世代が地域活動に参加しやすくなるようなアイデア、条件を出し合いました。

・「参加したい地域活動体験内容※」または「参加者自身が住む町内会の活動での体験」の2種類から参加者自身に選んでもらいました。

※予め札幌市がいくつか体験先を用意しておきました。

地域活動体験（平成29年10月～平成30年1月）

・それぞれの希望の体験先で地域活動を体験しました。（19ページ参照）

・地域活動体験は延べ18箇所で行われました。

※体験先の主な活動内容：公園の落ち葉拾い・植樹の冬囲い、交通安全の旗振り、高齢者サロン、子育てサロン、ビンゴ大会、ものづくり講座、地域の居酒屋、クリスマス会、もちつき、スポーツ大会、雪あそび　など

第2回意見交換会（平成30年1月21日）

・地域活動体験の感想を話し合いました。

・地域活動に対するイメージが体験の前後でどう変化したか話し合いました。（8ページ参照）

・若い世代が地域活動に参加するうえでのハードルになっていることに対し、解決するアイデアを出し合いました。（9～10ページ参照）

・地域活動を行う上で「若い人ができること」と　「町内会が配慮すべきこと」などのアイデアを出し合いました。（11～18ページ参照）

7ページ以降にこの意見交換のまとめが記載されています。

若い世代といっても、年代や趣味嗜好、子どもの有無などにより、ライフスタイルはさまざまであることから、地域との関わり方や求められることが違ってきます。

本事業の参加者である若い世代は、「子どもの有無」や「子どもの年齢層」で次のとおりタイプ分類を行うことができました。

まずは、それぞれのタイプの地域活動へのかかわり方の傾向を紹介します。

Aさん　未就学や小学校低学年の子どもがいて、地域とのつながりを求めている人

- 町内会の子ども向けイベントによく参加している。
- 子どもが小さく、仕事をしていないため孤立しがち・・・。
- 子育ての悩みを共有できる機会がほしい。
- たまにでいいので、気軽に子どもの世話を頼める人がいると、嬉しい。

Bさん　小学校高学年～中学生の子どもがいて、ある程度地域と関わりがある人

- PTAなどを通じて、町内会との関わりはある。
- 働いているため、平日は忙しい。
- 土日は習い事や部活などで子どもが不在にしている事が多いため、比較的自分の時間がある。

Cさん　子どもがいない人、または子どもが大きく地域との関わりが少ない人

- 小さい子どもという共通項がないため、町内会の行事も参加がしにくいと感じており、地域との関わりもほとんどない。
- 平日は仕事が忙しく、休みの日はお出かけや趣味など自分の時間が大切。
- 町内会には入っているが、集合住宅に住んでおり、町内会の回覧板も回ってこないため、情報が入ってこない。

次ページでは意見交換会で出た、「地域活動のイメージ」などの意見を3つのタイプごとに取りまとめました。

check

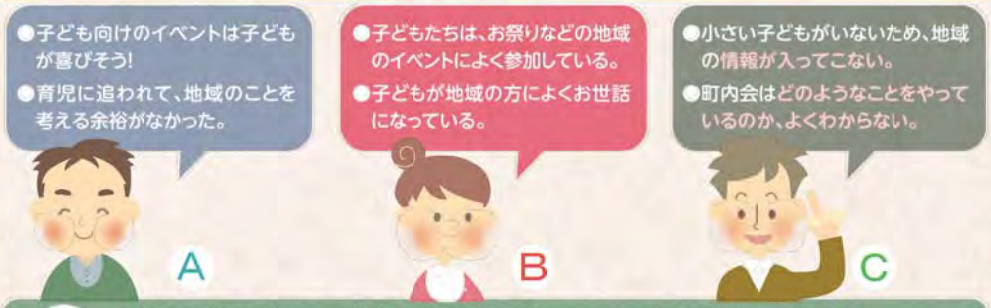
若い世代の声 ～地域活動に参加するために

Before

地域活動を体験する前に若い世代同士で意見交換を行い、それぞれが抱えている地域活動に対するイメージや参加意向、若い世代が参加する必要性などについて話し合いました。
その結果を前頁の3つのタイプごとにとりまとめました。

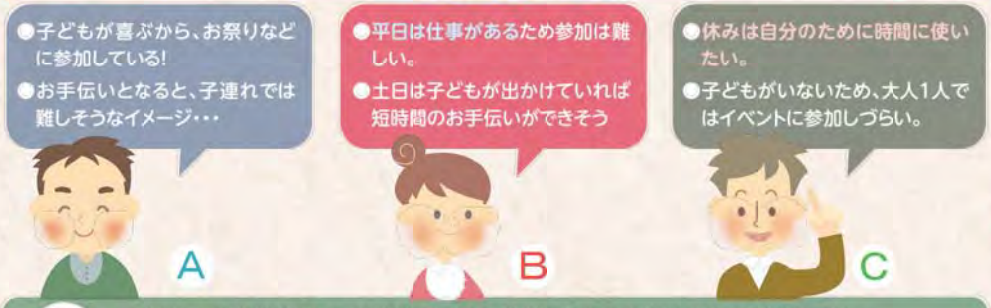
A 未就学の子どもがいる人
B 小中学生の子どもがいる人
C 子どもがいない人 子どもが大きい人

地域活動のイメージ



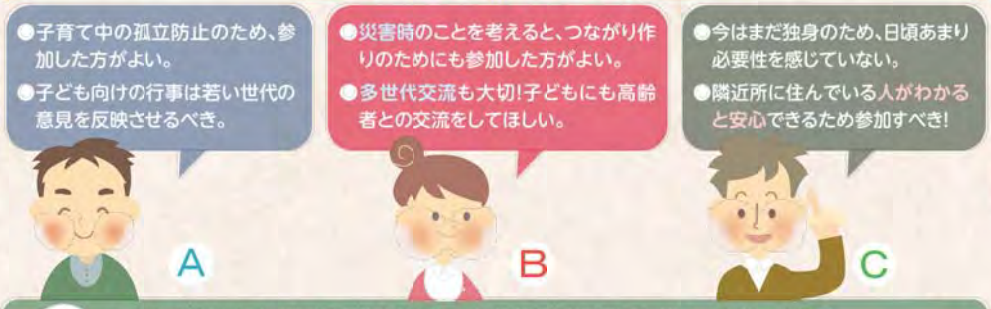
共通の意見
- 当日の参加はイベントの準備や調整が**大変そう**。声かけなど**参加のきっかけがない**。
- 高齢者が多く、入っていきづらそう。スマートフォンやSNSだと**気軽に連絡が取りやすいのに**。

今後の参加意向



共通の意見
- イベントの参加者としての参加はしたい。**自分のスキルを生かせるなら**参加したい。
- **参加しやすい雰囲気**や家族、友達と一緒でもよければ参加したい。

若い人が参加する必要性



共通の意見
- 若い世代に限らず、全年代が参加して組織や活動を継続させていく必要がある。
- 体力のある**若い世代のマンパワー**や、企画の際に**若い人のアイデア**が必要である。

After

若い世代のみなさんに、地域活動体験に行ってもらいました。地域活動体験を通じて、どのような意向の変化があったのかを確認しました。その結果から、若い世代が参加するために必要なことをまとめました。ぜひ参考にしてみて下さい。

地域活動のイメージ

- 参加してみると、意外と楽しかった!
- フレンドリーで新しい参加者を受け入れる姿勢が良かった。

一方

- 指示出しが明確でなかったため、何をすればいいか戸惑った。
- 若い人が参加しづらい閉鎖的な雰囲気だった。
- 体力的にも時間的にも大変だった。

約**6割**の人が「**楽しかった**」と感じた

今後の参加意向

- たまにだったら参加したい。
- 「また来てね」と言われたので参加したい!
- 興味ある内容と時間が合えば参加したい。
- お試しで参加できるならよい。

一方

- 一度参加したら、何度も参加しなければいけない雰囲気になりそう。

約**8割**の人が「**また参加したい**」と感じた

若い人が参加する必要性

- やっぱり若い世代の参加は必要である。
- 参加するだけでなく、管理や運営側で参加した方がよい。
- 世代交代が必要である。
- 力仕事など、若手の力は必要である。

一方

- 活動に参加している方のうち高齢の方々が予想以上に元気だったので、まだ参加しなくても良いと思ってしまった。

若い世代の皆さんが遠慮してしまうこともあるようです。積極的な声かけが重要かもしれません。

若い世代が地域活動に参加するために

まずは参加してもらう事が理解につながるということがわかりました。アプローチや参加のハードルを下げるなど、できることから始めましょう!

good

- アプローチする、間口を広げる
- お試しで気軽に参加してもらう
- 楽しかったら、また参加してもらう
- ゆくゆくは、お手伝いで参加してもらう
- 将来的な担い手に!

一方、こんなことが参加する上でのハードルになっているとわかりました

bad

- 大変そう、負担感がある
- 参加しづらい雰囲気
- 時間や条件が合わない
- 情報がない

次ページではこれらの解決のアイデアと実践事例を紹介します!

若い世代に参加してもらうためのヒント ～具体的なアイデア～

ヒントその1 「大変そう」「負担感がある」のハードルを下げる

解決のアイデア（若い世代の意見より）

◇お試し体験で参加
町内会活動を見学するイベント、お試しで友達と参加できるとよい

◇活動の内容を明確化
役割がわかると参加のイメージがつきやすい
活動やお手伝いの内容をリストにして見える化してほしい

◇参加のメリット
地域活動を頑張った人にポイントやお礼の品などで還元すると参加につながる

実践事例（札幌市手稲区暁星第三町内会）

町内会役員の担い手確保のため、「役員のおしごとガイド」を作成した。
ガイドには、各部の役割だけでなく、町内会の行事の写真をたくさん載せることで、町内会活動に参加したことのない住民がみても、活動をイメージしやすいように配慮している。
また、裏面には「お手伝い募集」の欄を設け、役員だけでなく行事での簡単なお手伝いとしての参加を募ることで、参加のハードルを下げるよう工夫している。

ガイドはより多くの住民の目に触れるために、全戸配付を行う予定である。

ヒントその2 参加しやすい雰囲気づくり

解決のアイデア（若い世代の意見より）

◇テーマに沿った事業
同じ趣味を持つ若者がお酒を飲みながら交流する機会をつくるとよい
映画鑑賞や手芸など若い世代が参加しやすいテーマでかつ、月替わりでテーマを変えて交流会を行ってはどうか

◇さまざまな人が関わる仕組み
スキルを活かして町内会のお手伝いをする「ヤング人材センター」制度をつくるとよい
ヨガなど特技を持つ地域住民のスキルを活かしたイベントを行うと、幅広い住民が参加すると思う

実践事例『活動協力員制度』（札幌市白石区共栄第三町内会）

将来は町内会役員として活動してもらうことを前提とした「活動協力員」制度を平成28年度に発足。その後、青年部（活動協力員から3名が選任）を立ち上げ、町内会役員として若い世代が活躍。さまざまな活動を行って町内会の活性化に寄与している。活動協力員は、以下のポイントで、若い世代も参加しやすい組織になっている。

- 「仕事と家庭が第一」と割り切る
- 将来は、会長及び役員の担い手として活動してもらう
- 若い人の意見を尊重する（イベントを任せるなど）
- 会議出席は代理でも可。子連れでの参加も可。

参加しやすい組織づくりにより、約30名が協力員に！

ヒントその3 時間や条件を若い人に合わせる

解決のアイデア（若い世代の意見より）

◇参加しやすい時間設定
毎回同じ時間だと参加しやすい
長時間の参加は難しいため、朝一・日中、夜遅くなど小刻みであれば活動しやすい
会議は時間を設定し、それが守られれば、参加しやすくなる

◇子どもを連れて参加できる
高齢者や保育学科の学生に子どもを見てもらえると参加しやすい
子育てサロンと連携して町内会の会議を行うとよい

ママトモのネットワークと町内会の関わり（札幌市清田区北野まきば町内会）

地域のママさんたちのLINEグループがあり、青少年育成部のママさんから町内会行事のお知らせやお手伝いの募集の連絡などに活用されているほか、地域の不審者情報などの共有も行われている。
また、ママトモのゆるやかな交流会を、地区にある会館で不定期に年数回開催している。交流会の会場にはキッズスペースを設けていて、大きい子が小さい子の面倒を見るなど、子連れでも参加しやすいよう配慮されており、子どもを通してママトモ同士の交流も生まれている。

ヒントその4 若い世代にも届く情報発信・共有を行う

解決のアイデア（若い世代の意見より）

◇SNSやメールでイベントや会議の情報を発信
回覧に担当者のメールやSNSの連絡先を記載し出欠連絡できるようにするとよい
連絡もLINE※注1グループやメールを活用できれば、気軽に情報共有ができるのではないか

◇普段の活動の様子を発信
普段の活動の様子を写真や動画で発信すると、町内会を身近に感じることができる

◇チラシ・ポスター
スーパー、学校、病院の待合室、地下鉄などでポスターを掲示してはどうか
イベント参加者へチラシを配布して、行事のお手伝いを依頼するとよい

『Facebookページの活用』

札幌市内の町内会で、Facebookページを活用した情報発信に取り組んでいる町内会がある。それらの町内会では回覧板での周知も行いながら、タイムリーな情報などをFacebookページで発信している。

- とある町内会では、高校生を情報発信ボランティアに任命し、Facebookによる情報発信をお任せしている。
- また、大学生と一緒にFacebookページの活用方法を考え、今後の記事のアップに関するルール等を共有しながら定期的に情報発信できるよう取り組み始めている町内会もある。

※注1）LINEについてはp21を参照ください

若い世代に参加してもらうためのヒント
例えば、『イベントの企画運営』だったら・・・

若い世代が町内会のイベントなどに関わる場合、企画から準備、当日の運営の段階で、「どのようなことができるか」また、そのために「町内会が工夫・配慮した方がよいこと」について意見を取りまとめました。若い世代から出た意見はこれだけではありません。13ページから18ページにかけて表にして意見をまとめました。
地域側が工夫した方がよいことを受け止め、できることから実践につなげてみましょう!

若い人ができること やること

日程調整
- メールかLINEで調整
- 出欠確認表をクラウドで共有

パソコンやスマホで若い人のスキルを生かす
- 資料づくり、SNSでの情報発信、パソコンやスマートフォンの使い方講座など、若い人のアイディアを生かす。

若い人のアイデアを生かす。
- アイデア出し(既存行事で若い世代がお試しで企画、企画大会にして競うなど)
- アイデアや意見の収集
(ご意見ボックスやSNSで意見を求める)

会議への参加
- 仕事の都合で頻繁に会議に参加できないが、できるだけ参加する。
- 打合せなど、町内会と顔を合わせて話し合う時間をつくるようにしたい。

企画 (企画会議の日程調整参加者を集める企画内容を考える など)

町内会が工夫・配慮した方がよいこと

参加しやすい雰囲気づくり
- 参加しやすい雰囲気づくり
(ネームプレート、事前の親睦会)
- 役割の見える化
(マニュアル作成、手伝ってほしいことをリスト化)
- 子連れでも参加できることをアピール
(託児スペースを設ける)

参加のきっかけづくり
- 若い人へ役割を与える
- 仕事を依頼するなどして、若い人が会館に来る機会を設ける
- 町内会から若い世代に積極的にアプローチをする。
- 町内会会員以外も参加できるようにして間口を広げる
- 参加のメリットをつける(報酬卅、飲食など)

他団体との連携
- 専門分野を学んでいる学生のスキルを活用
(託児、散髪、写真撮影など)
- 他団体と連携して参加のメリットをつける
(飲食店のクーポン、大学の単位など)

若い人の受け入れ体制
- 若い世代の意見の受入
(若い世代に企画を任せる、企画を提案する機会を設ける)
- 会議・日程など配慮
(平日夜や週末に開催、手短に(1時間程度)Skype参加検討)

SNSやクラウドの活用
- LINEが出来る役員を若い人の窓口とする
- 町内会のクラウドの作成
(資料や日程調整表を共有)

限られた範囲での手伝い
- 短時間でやることが決まっているならば手伝える
- 買い出し(準備物の買い出し、インターネットで安く購入)

資料づくり
- 仕事でも作っているのでお祭りなどの商品POP、ターゲットに響くチラシを作成できる。

情報発信
- Facebookやホームページの立ち上げ(記事のアップは分担)
- 保育園や学校にチラシを設置、身近な同世代の若い人への声かけ

短時間のお手伝い
- 写真・動画で記録する
- 子どもがいると準備・設営は難しい
- 時間が短かければ手伝える
(準備だけ、片付けだけ、1~2時間など)
- 力仕事はできる

事後の聞き取り調査
- 参加者からの意見をまとめて町内会に伝える
- 反省会などで次に繋がるアイデアを出す

準備 (情報発信、物の準備、運営スタッフの手配 など)

当日・その後 (当日の準備・設営、運営 など)

準備物や役割の明確化
- 買い物リストの作成
- お互いの役割をリスト化
(当日まで作業をリストにして役割分担)

組織や仕組みの工夫
- 実行委員会をつくり、若い人に声をかけ参加してもらう
- ボランティア担当部の設置

情報発信・共有
- 町内会のLINEグループの作成
- スーパーで町内会のお知らせを掲示
- 毎回同じフォーマットでチラシを作成すると、ひと目で町内会のイベントであるということがわかる。

ゼッケンや初心者マークなどで見える化
- 役割ゼッケンを全員が着用することで初めての参加者が誰に何を聞けばいいかわかるようにする
- 初心者マークやバッジなどをはじめて参加した方に着用してもらうことで、周りの人に気にかけてもらう。

参加のハードルを下げる
- 役割ごとの事前レクチャー
- 役割分担表を1時間ごとのシフト制で作成
- 終了時間の明確化
- お試しの参加の受け入れ

SNSページの作成
- 町内会のFacebookページやインスタグラムのページ作成

打ち上げや事後アンケートでのフォロー
- 終了後の打上げ
(継続的な参加につながる)
- 事後のアンケートの実施

企画　～意見の詳細～

企画

・会議の日程調整
・参加者を集める
・企画内容を考える
など

若い人ができること・やること

● 若い人のスキルを生かす

【資料づくり】
・パソコンで、当日のプログラム等の資料づくりは参加できる。
・運営側のマニュアルを作成する。
・SNSでの発信方法のマニュアルを作成する。
【パソコン・スマートフォンを教える】
・仕事のスキルを活かして、パソコンやスマートフォンの使い方を教えることができる。

● SNSやメールなどの活用

【SNSでの情報発信】
・FacebookやTwitterで町内会のアカウントをつくり、情報発信する。
・既存のアカウントで告知と運営側の募集を行う。
・若い世代の方を含めたグループLINEを作成して情報発信する。
・広報するチラシにスタッフ募集のLINE ID、QRコードをつける。

QRコード
sample

【日程調整】
・日程調整は、メールかLINEであればやりやすい。
・エクセルの出欠確認表をクラウドで共有して、みんなが書き込んで更新していくとよい。

● 若い人のアイデアを生かす

【アイデア出し】
・既存行事の中で若い世代の考えた企画をお試しで実行する。
・企画大会形式にして、楽しみながら企画から参加する若い人を増やす。
・若者にうけそうなメニューや企画のアイデアを出す。
【アイデアや意見の収集】
・ご意見ボックスやSNSで参加者からの意見を集めて整理する。
・企画会議に頻繁に参加することは難しいが、LINEグループで意見やアイデアを集めることができる。

● 会議への参加

・仕事の都合などから、頻繁に会議に参加することはできないが、できるだけ会議に参加するようにする。
・打合せなど、町内会と顔を合わせて話し合う時間をつくるようにしたい。

町内会が工夫・配慮した方がよいこと

● 町内会の受入体制

【参加しやすい雰囲気づくり、顔の見える関係】
・軽い気持ちで参加できるような雰囲気が出ると良い。
・自己紹介文や役割・キャッチコピー（「会計のことなら聞いてくれ」など）を記入したネームプレートをつける。
・まずは名前を知るだけでも良いので、事前の顔合わせ（親睦会など）の機会を設ける。
【若い世代の意見を受け入れる姿勢】
・若い世代ならではの視点からの新しい意見を取り入れるため、新しい企画やアイデアを出す場を設けるとよい。
・お金だけ渡して、若い世代に企画から全て任せてみるとよい。
・町内会でアンケートを取って、企画に反映させるとよい。
・町内会の伝統という理由だけで行事を続けるのではなく、来てほしいターゲットに合わせた企画にしていくように、企画そのものを見直す。
【会議の日程や参加方法などの配慮】
・できれば大まかな年間スケジュールを把握し、会議は2～3ヶ月前に案内してもらいたい。
・働いている人も会議に参加できるよう、平日の夜や週末に開催したり、1時間以内で終わるようにした方がよい。
・会議や事前の手伝いなど、候補日をいくつか提示してもらうと参加しやすい。
・家でもできる会議参加の仕方を取り入れてみるとよい（事前にメールで意見交換、Skypeでの参加など）。
【イベントマニュアルの作成】
・イベントマニュアルを作り、新しい人もわかりやすく企画や準備から参加できるようにする。
・町内会が困っていることや手伝ってほしいことを可視化して、若い人が何をすべきかわかりやすく知らせてほしい。

● 参加のきっかけを提供する

・仕事を依頼するなどして、若い人が町内会館に来る機会をつくったり、町内会からアプローチをかける。
・町内会加入者だけでなく、参加者の間口を広げる。

● SNSなどの対応

・町内会のクラウドをつくり、行事に関する資料や日程調整表をクラウドで共有できるとよい。
・町内会の中でSNSの扱いが得意な人を選出して情報発信の担当者をつくる。
・町内会役員の中で誰かひとりでもLINEが出来る人がいると、その人にまとめて意見やアイデアの情報提供がしやすくなるため、LINEを活用すると良い。

● 参加のメリットをつくる

・若い世代が参加するために、飲食、大学の単位、履歴書に書けるなどのメリットがあると参加しやすい。
・若い世代に町内会活動に参加してもらう際、対価として報酬や商品券、クーポンなど何か参加特典をつけてほしい。

● 他団体との連携

【マッチング機能】
・仲介としてまちづくりセンターや市が入ってくれるといい。
・児童館の先生などの第三者を橋渡し役として、町内会役員と地域の若い人の仲介役となってもらう。
・学校、団体、部活と一緒に町内会活動を行う。
【他団体の協力を得る】
・専門分野を学んでいる学生に町内会という場を活用してスキルアップしてもらう。（託児、カットモデルやメイクの練習台、写真撮影のモデルなど）
・イベントのスポンサー企業を集め、企業に行事を告知してもらう。

若い世代に参加してもらうためのヒント

例えば、『イベントの企画運営』だったら・・・

準備　～意見の詳細～

準備

・情報発信
・物の準備
・運営スタッフの手配
など

若い人ができること・やること

● 資料などの作成

・仕事で作っているので商品説明のPOPなどは作れる。
・ターゲットの層の感性に響くチラシを制作することができる。

● 情報発信

【SNSやインターネットでの情報発信】
・Facebookページを立ち上げるだけだったら手伝える。その後の記事のアップは分担してやって欲しい。
・高齢者に向けたSNSの使い方講習も出来るとは思う。
・町内会のホームページをつくる。無料のツールがあるので活かす。
【その他の情報発信】
・保育園や学校など子どもの集まる場所にポスター掲示、または保護者に配ることができる。
・広報車で宣伝するのもおもしろい。
・配偶者や身近な家族に声かけして一緒に参加できる。
・企業が各町内会の情報を一括に掲載したFacebookやホームページを開設し、町内会の基本情報やイベント情報を発信する。また、Googleカレンダーなどを活用する。

● 限られた範囲での手伝い

・短時間でやることも決まっているならば、準備も手伝える。
・「この日だけ」、「この作業だけ」のお手伝いならできると思う、作業を細分化、明確化してほしい。

● 買い出し

・買い出しや買い出しのための車を出すことはできる。
・町内会からリストアップしてもらった準備物の買い出しはできる。
・お得に買い出しして、節約できたお金を好きに使っても良いようにすれば、若い世代がやる気になる。(インターネット通販を活用すれば安く買うことが出来る)
・小さい子どもがいても、インターネットでの買い物なら手伝える。
・インターネットで買った商品のお届け先を町内会館にすれば、年配の役員の方の負担も減るのではないか。

町内会が工夫・配慮した方がよいこと

● 情報発信・共有

【SNSの活用】
・LINEやFacebookで情報発信をしてはどうか。
・もちつきなど飲食を提供する行事があるので、町内会オリジナルメニューをクックパッドで紹介すると面白い。
・町内会のLINEグループで「●●できる人?」など気軽な発信があると、「わたしできます!」と反応しやすい。
【掲示板での発信】
・まちなかや人が集まる施設に掲示板を設置するなど、町内会毎のお知らせがまとめて見られるとよい。
・スーパーにお知らせを掲示し、それを見て行事に参加した人にスーパーの割引券を配ると、スーパーにも客が増えてよいのではないか。
・チラシやポスターは毎回同じフォーマットにすると、町内会のイベントであることがひと目で分かるようになる。
【町内会のクラウドをつくる】
・町内会がチラシに掲載したい内容をテキストで作成してクラウドで共有し、それを元に若い人がデザインして完成したチラシをまたクラウドで共有する事ができると、個人的なメールのやりとりよりも気軽でよい。
・毎回会ってデータのやりとりをするのではなく、クラウドでデータのやりとりが出来ると、みんなが見ることができるし、時間の節約にもなる。

● 実行委員会の立ち上げ

・役員だけでなく、行事ごとに実行委員会のような組織をつくり、若い人に手伝ってもらえるようにしたい。
・チラシで告知すると同時に、当日までの準備のお手伝いを呼びかけることができるとよい(お手伝いの内容は明確に記載するとよい)。

● 準備・役割を明確化

・準備から、当日までのやることの項目立てやスケジュールを教えてもらいたい。
・「材料の項目立て」を町内会の人に行ってもらい、「買い出し班」を若い人がやるような分担をする。
・必要な準備や材料、保健所での手続きなどをリストアップし、それから役割分担できるとよい。
・手伝うことをリスト化してくれたら、部分的に手伝えるものなどが見えてくると思う。

● 参加のハードルを下げる

【子どもと参加できる環境づくり】
・子どもが騒いでしまった時などに肩身が狭く感じてしまうことがあるため、会議やお手伝いなどにも子どもを連れて来ても大丈夫という雰囲気づくりや託児スペースがあるとよい。
・小学生の子どもと一緒にできるような内容のお手伝いがあると良い。
・「初参加でもOK」、「子連れOK」をもっとPRしていった方がよい。
【参加のメリットをつける】
・手伝ってもらったお礼に食べ物などのメリットをつける。
【個人ではなく団体として参加してもらう】
・個人ではなく、学校や企業などの肩書きがあった方が参加しやすい。
・学生はサークルの単位で参加すると町内会に親しむきっかけとしては良い。社会人になってからも参加しやすくなる。
・お花屋さんがお花を配ったり、飲食店が食べ物を提供したりと、近隣の企業が参加すると義務感も生まれるし、参加しやすいため、研修の一つとして取り入れるよう町内会から働きかけてはどうか。
・学校祭に町内会が出店し、町内会のPRを行ってはどうか。
【ボランティア担当窓口の人をつくる】
・ボランティア担当部長と仲良くなって、きちんと指示を出してくれると参加しやすい。

当日　～意見の詳細～

当日

・当日の準備・設営
・運営　など

その後

若い人ができること・やること

記録係
・写真・動画で記録を残すのはできる。
・学生などの若い参加者にも、行事の様子をSNSにアップしてもらうとよい。アップしてくれたら、お礼に景品や焼き鳥などをあげると協力してくれるのではないか。

限られた範囲でのでお手伝い
・子どもがいると準備・設営は難しいかもしれない。
・早朝からの準備は難しいことがあるが、午後からや1～2時間限定などであれば手伝うことができる。
・朝の準備チーム、後片付けチームなど参加しやすい時間で手伝いをする。

力仕事
・力仕事はできる。

積極的な姿勢で参加
・やることがあるか積極的に聞く。(運営、役割を確認)

事後の聞き取り調査
・参加した子どもたちから、意見を聞いて町内会に伝える。
・企画段階から参加するのは難しいため、反省会などで次に繋がるアイディアを出す。
・結果は記録としてまとめ、次年度に活かせるように共有する。

町内会が工夫・配慮した方がよいこと

ゼッケンや初心者マークなどで見える化
・町内会のイベントでも社会福祉協議会や市の人など、様々な立場の人がいたので、誰に何を聞いていいのかわからなかったため、担当がすぐわかるように「もち配膳担当」などと役割をゼッケンなどで見せておくと良い。
・初参加の人は初心者マークをつけることで、日ごろから参加している人たちに積極的な声掛けなどフォローしてもらいたい。
・1日限定のお試し参加を表すバッジやプレートなどがあると、話題にもなりやすく、お互いに話すきっかけになるのではないか。

参加のハードルを下げる
【目的の明確化】
・事業の内容以外に、事業自体の目的や意義がわかるようなチラシやパンフレットを作ってほしい。そうすると、参加することに納得ができるため、参加のハードルが下がる。
【役割の軽減、見える化】
・お手伝いで参加してくれる人が負担に感じないように、イベント規模や、お手伝いの内容の見直しを行う。
・当日にどれぐらいの人が来るか、予めわかるように出欠を取るとよい。
・作業工程をすべてリスト化し、やることが見えることで、全体の流れがつかめて参加しやすくなる。
・事故などがあったら困るため、当日でも事前でもよいので、役割ごとに集まってレクチャーする必要がある。
・指示が明確だと役割が明確になる。役割が明確になると、責任感にもつながる。
・当日、ほったらかしにしない。指示をしっかり出す。(運営、役割を確認)
【時間の配慮】
・仕事やプライベートの時間に配慮して、準備、調整、片付け担当などを設けてもらう。
・役割分担表を1時間ごとのシフト制でつくると、ライトな参加ができるのでよい。
・いつ終了するのか分からないと時間がだらだらと続くことがあるため、終了時間を明確にしてもらう。
【1日限定のお試し参加】
・お手伝いに初参加した後も継続して参加できるかはわからない。当日だけのお試し体験であれば、参加しても良い。
・お試し体験では、一部分だけのお手伝いではなく、イベント全体がわかるように、いろいろなことを体験させてもらえると良い。

SNSでの情報発信
・いい写真を撮ってもらい、Facebookでアップできるよう町内会のページをつくる。
・インスタグラムだと実名投稿でないため、アップしやすい。
・ブースにインスタ映えスポットをつくる。

打ち上げ
・終了後の打上げは必須である。
・打上げはコミュニケーションの場になり、今後の継続的な参加につながる。

事後のアンケートの実施
・イベント終了後のアンケートや反省会は次回へつなげていくためにも必要である。

参考

地域活動体験レポート

若い世代が参加した地域活動体験の様子に密着しました！
さまざまなタイプの若い世代が地域活動にどのように関わり、何を感じたのかをご紹介します。

小さい子どもと一緒に参加!公園の落ち葉拾い

札幌市内中心部のマンションなどの集合住宅が多い地区に住む、小さいお子さんを持つAさんが、町内会の公園清掃活動に参加しました。Aさんは、日頃からお子さんを連れてよくこの公園を利用していたそうです。

秋の朝早い時間からの清掃活動ということで、結構寒かったようです。当日の朝、予め聞いていた集合時間に到着すると、既に落ち葉拾いは始まっていました。「時間きっちりではなく、ある程度の人が集まったから始めよう」という多少の緩やかさを感じ、「今後も気軽に参加できそう！」とAさんは思ったそうです。

落ち葉拾いが終わった後は、地域の方と少しお話をしながらお子さんを可愛がってもらい、地域の方と顔見知りになれて、とても良い時間が過ごせたようです。

VOICE!参加者の声

日頃参加することの少なかった町内会活動ですが、これをきっかけに参加していきたいと思いました。
今までは子どもと一緒に公園を利用するだけでしたが、今後は管理する側としての参加も大切だと、この体験を通じて意識が変わりました。子ども連れでも参加できたことが、参加しやすい大きなポイントでした。

子育て真っ盛りの若いママさんが子ども向けの行事でお手伝い

3人のお子さんをもつBさんは、子育て真っ盛りです。そんな中、近所の町内会の子ども向け行事である「クリスマス・もちつき大会」にお手伝いとして参加しました。

当日、自身のお子さんはご家族に預けてきたそうです。会場に着いたら、まずは前半戦のクリスマス会の設営や準備をお手伝いしました。クリスマス会は、未就学児から小学校高学年まで幅広い年齢の子どもたちの参加がありました。

会の中では、子どもたちがスノードームや雪だるまの人形など、クリスマスグッズづくりの体験を行い、Bさんは子ども達をサポートしながら楽しく交流していました。クリスマス会の最後にはサンタさんから子ども達へお菓子のプレゼントがありました。

また、後半戦のもちつきでは、盛り付けなどのお手伝いを行ったあと、みんなでおもちをいただいて終了しました。

VOICE!参加者の声

高学年の子どもなど思っていたよりも大きい子も参加していて、正直意外でした。小さい子は保護者と一緒に、大きい子は自分たちだけで楽しみながら参加できる行事があるのは、とてもいいと思います。自分の子どもにも参加させたいです。お手伝いも思ったよりも楽しくて、また参加したいと思いました。

女性部ものづくり講座に参加して地域の情報もGET!

自分の住む町内会で、年1回行われている女性部のモノづくり講座に参加したCさん。
これまで、地域の商店街のお手伝いは経験があったそうですが、町内会の行事に参加することはあまりありませんでした。
女性部主催のものづくり講座では、参加者の方と一緒におしゃべりしながら和気あいあいとペン立てを製作しました。
運営のお手伝いはほとんどなかったのですが、製作途中で高齢の方に作り方を教えるなど、雰囲気に馴染みながら、活躍していました。
この活動の中で地域の方とおしゃべりしながら、これまで知らなかった地域の情報を教えてもらうなど、とても良い機会になったそうです。

VOICE!参加者の声

教えてもらった情報のうち、特に気になったのが、みなさんがお手製の漬物を持ち寄って配りあう会です。そんなステキな会があるなんてこれまで知りませんでした。楽しく参加しながら地域の情報もGETできて大満足です。今度、漬物の会もぜひ参加したいと思います。
地域の方とつながりができることで、これからますます安心して暮らしやすくなるので参加してよかったです。

若い男性が活躍!雪中運動会で運営をサポート

この地域では、冬の風物詩である雪中運動会が毎年開催されています。若い男性のDさんは、自分の住んでいる地域ではなく、活動内容や実施日からこのイベントへの体験を選びました。気温マイナス8度という極寒の中、参加は小学生や未就学児、その保護者などの若い人たちで賑わっています。

まずはテントの設営やソリ滑り用の雪山の整備などの準備を行いました。イベントが始まってからは、役割ごとにチームが組まれていて、Dさんは“参加者の誘導チーム”の一員となりました。明確な役割と指示があり、スムーズに運営のお手伝いができたそうです。テキパキたくさん動いたおかげで、寒さも吹き飛んだ後、最後は寒空の中で町内会お手製の豚汁をいただき、ほっこりして終了しました。

VOICE!参加者の声

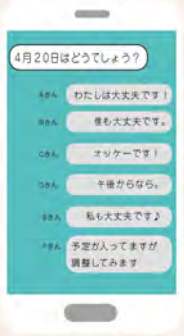
自分の住む地域ではないですが、この地域活動体験を通じて、自分の地域での活動に参加したいと思うきっかけとなりました。自分自身も参加してとても楽しかったです。また地域が若い人のチカラを必要としているのもわかりました。
今後、このような機会を増やして少しでも多くの若い人が参加するきっかけをつくる必要があると感じました。

補足 地域活動体験では「参加者自身が住む町内会」のほか「札幌市があらかじめ用意した体験」のどちらかを参加者自身に選んでもらいました。

参考 町内会をITで便利に LINE・クラウド Skypeについて

本編で紹介した若い世代からのさまざまなアイデアや実践事例の中から、若い世代との通信手段や情報共有ツールして紹介されている「LINE（ライン）」「クラウド」「Skype（スカイプ）」とは一体どのようなものなのかを簡単に紹介します。

■LINE（ライン）とは



スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレットで使用することができる無料のコミュニケーションツールです。会話のようにメッセージをやり取りでき、メールよりも素早く連絡を取ることができるため、友達同士や同僚、家族との連絡ツールとして多くの若い世代の方が活用しています。

○LINEグループについて

LINEグループを作成すると、グループのメンバー（複数人）に一斉にメッセージを送ることができます。例えば、何か予定を立てるときの出欠確認の際、それぞれ個別に連絡しなくても済むため、スムーズにやりとりできます。町内会役員のLINEグループを作成して、会議の日程調整などを行っている町内会もあります。LINEを使える町内会役員が窓口となり、地域の若い人たちとLINEグループで情報共有を行うなどのアイデアも、若い世代から出されています。

■クラウドとは

資料などのデータを、目の前のパソコンではなく、インターネット上で共有できる仕組みのことです。通常は、パソコンで作成したデータを誰かと共有する際、USBメモリやCD-Rにデータを入れて渡したり、メールで送ったりすることが多いかと思います。クラウドを利用する場合にはインターネット上（クラウド）にデータを保存できるため、資料を作成したパソコンと違うパソコンからクラウドにアクセスしても、同じデータを共有することができます。そのため、何人もの人が同じデータを共有・編集できるようになります。

※クラウドは不特定多数の人がアクセスできるわけではないので、アクセスしてもらいたい人（町内会員など）だけにアクセス方法を教えると、プライバシー面でも安心して活用できます。

■Skype（スカイプ）とは

テレビ電話のようなもので、遠隔の相手と映像を介してリアルタイムでコミュニケーションが取れるツールです。例えば、ビジネスでは、遠方にいる相手との会議や打合せなどに活用されています。町内会でも会議の際に遠隔で参加できる仕組みとして、Skypeなどの活用が若い世代からアイデアとして出されました。また、Skypeに限らず、他にも似たような機能を持つSNSのツールもあります。

memo あなたのアイデアを書いてみましょう！